

会 議 議 事 録

会議名	令和2年度第2回 東京工科自動車大学校三校 教育課程編成委員会		専門学校 東京工科自動車大学校 専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校 専門学校 東京工科自動車大学校品川校
開催日時	2020年11月20日（金） 15:00 ～ 17:00		
会場	東京テクニカルカレッジ 地下1階テラホール		
参 加 者	委員	19名	【出席者18名】 ◇1 級教育課程分科会 ・佐藤 康夫（全体会議長、1 級分科会議長） ・佐々木 章 ・伏見 一洋 ・宮谷 真樹 ・増田 智秀 ・保田 正義〔新任〕 ・酒井 彦樹 ・井上 真一 ・園田 幸祐（書記） ◇2 級教育課程分科会 ・松村 道隆（2 級分科会議長） ・武井 和則 ・国分 秀貴 ・油井 文江 ・永野 英臣 ・清 宏一郎 ・坂本 康将 ・高橋 輝彦 ・開田 実（書記） 【欠席者1名】 ・浅井 恵一
	事務局	1名	澁谷 健（全体会書記）
全体会 配布資料	————— 全体会 ————— <配布資料> ・議事次第 ・資料A・・・全体会説明資料（パワーポイント） ・資料B・・・委員名簿		
報告事項	1. 委員長挨拶 委員長より挨拶として下記の説明・報告がなされた ・2020年度教育活動進捗報告（資料A） →就職内定状況、履修状況、企業連携授業等の報告 2. 委員の紹介 ・事務局より新任委員1名の紹介を行なった（資料B）		

協議事項	3. 議事 3-1. 前回議事録の確認 ・事務局より令和2年度第1回教育課程編成委員会の議事概要の確認がなされた。 3-2分科会 議長・書記の選出 出席者の確認 事務局提案により ・1級課程分科会 議長:佐藤委員長、書記:園田委員 ・2級課程分科会 議長:松村委員、書記:開田委員 →全員一致で承認 以上をもって、全体会を散会とし、分科会に移行した ————— 1級教育課程分科会 ————— 配付資料 ● R3年度科目配置(案) 中野校 1級自動車整備科 3年 4年 ● 新科目コマシラバス
1級分科会 配付資料	
報告事項	1. 令和2年度第1回1級分科会審議事項の振り返り 議長より令和2年度第1回の1級分科会の内容について報告がなされた。 前回の1級分科会では、中野校を中心とした特定整備に関わる取り組みを報告し、科目等の意見交換を行った。現在、新たな取り組みとして、中野校3年生4年生のカリキュラム変更、シラバス・コマシラバスの作成、中野校の特定整備事業場としての認証を取得など、精力的な取り組みをしている。
協議事項	2. 中野校新科目(シラバス・コマシラバス)についての意見交換 ・中野校 1級自動車整備科 科長の園田委員より配布資料を基に1級自動車整備科3, 4年「新科目コマシラバス」の説明を行い各委員の意見をいただいた。 ・「ASV整備技術(特定整備検査実習)」・・・卒業後の特定整備事業についての理解と、特定整備事業の「整備主任者」の役割、実際のエーミング作業を学習する。 各委員からの意見 →(学外委員)コマシラバスにあるセンサー類は、過去のものが多く、これからは「ライダーセンサ」が必須となる。コマシラバスの中に「ライダーセンサ」を取り入れるべき。 →(学外委員)ASVを学ぶ上で、是非とも実車体験をしてもらいたい。どのようにセンサーが働き、どのような制御を行うか、体感することが大切。実現には実車体験はハードルが高いので、安全を担保し、実現してもらいたい。 ・「車両制御テクノロジー(車両整備技術基礎)」・・・1年生、2年生に学習した制御をシステム全体で考えたときに関連性が理解できることを目的とする。 各委員からの意見 →(学内委員)この科目は講義科目なので、1コマ毎のコマシラバスが必要。 2級の復習が多く、新しい内容と混在しているので、新たに学ぶ内容と、復習で学ぶ部分とは、分けて明記する必要がある。 →(学外委員)この科目は実習を多く入れて、限りなく実習に近い講義科目にしてはどうか。 →(学外委員)古いシステムの内容が見受けられるが、古いシステムにとらわれることなく、新しいシステムも取り入れてみてはどうか。 ・「ヴィークル・メンテナンス実習(車両整備の応用実習)」・・・国家一級小型自動車整備士取得に必要な、二級整備士レベルの電気回路について復習することにより、3年生、4年生の授業の理解度が深くなる。テスター、外部診断機を多用した故障診断技術を習得し、電気回路

	の進化について学習する。 各委員からの意見 →(学内委員)「ヴィークル・メンテナンス実習(車両整備の応用実習)」をやる直前に「車両制御テクノロジー(車両整備技術基礎)」の科目を実施すると、効果的ではないか。科目配置を検討してみてもどうか。 →(学外委員)実際の現場では、デジタル・テスターを使っているの、学生個人でオシロスコープ機能付きマルチテスターを購入してはどうか。個人所有のほうが、オシロスコープ等に興味を持たせやすいのではないか。 今後の整備士は、電気・電子制御に強い整備士でないと、業務内容のレベルが上げられない。 →(学内委員)コマシラバスの内容には、「車両を使って・・・」と、明記されているので、シラバスにも車両を使うことを明記することが必要。 →(学内委員)シラバスに、「できる目標」の明記が必要。特に実習の場合は、「できる目標」が必要。 園田委員からの相談 ・特定整備に関わる「エーミング作業」を企業側の研修施設等で実施ができないか。 →(学外委員)可能だと思う。受け入れる時期と、人数で相談させてもらえば可能。 →(議長)今後、中野校の企業連携での授業実績を重ねて、世田谷校、品川校にも実施していく方向で進めていく。 今回の1級分科会で協議したコマシラバスの内容は、来年度スタートするので、今回の委員会でいただいた意見を参考に再度練り直し、後日、学外委員の皆様に確認していただくこととする。 ————— 2級教育課程分科会 —————
2級分科会 配付資料	〈配布資料〉 ・第1章 早期離職の現状 ・早期離職者インタビューファイル
協議事項	〈議事〉 1. 前回議事の確認 議長より、コロナ禍に於ける学校の状況、前回議事の内容と本会議事に対しての確認がなされた。 ・学内では、新型コロナのクラスターは現在発生していない。 ・中野校で2名の陽性反応者が出たが、中野保健所の指導に従い、該当学生を出席停止(2週間)、校内の消毒を行い、休校にはしていない。 ・コロナ禍に於いても内定取り消し等の問題は発生していない。 ・前回議事より、「早期離職」について防止する策を検討し、学校としてどのような検討をすすめればよいか。企業様より意見を頂く内容で進めたいと思う。 2. 早期離職の現状と意見交換 配布資料より ・議長より提示した資料(某企業よりだされた「早期離職現状」「インタビューファイル」)を鑑みると、3年以内の離職率が平均30%以上増加しているのは、明らかである。 (議長)現状として、委員の方の企業では、早期離職は増えているか。またその理由は何か。全学外委員の現状と意見を聴取したい。

・(企業委員1) 我々は、輸入車を専門に扱う若い企業であるが、早期は入社後間もなく離職してしまう問題がある。3年以上の者は辞めない。3年以上継続してから退職するものは、キャリア・アップを主として退職するものである。

・早期離職者の割合は、2級課程で50%だが、1級課程では10%程である。2級課程では、就職の現状を理解していないのではないか。

→1級課程にはインターンシップがあるので、それが有効的に働いているのではないか。

→2級課程も1週間ほどは、実施しているが、効果はない。1級課程のほうが学校の先生とのコミュニケーションが良くとれており、仕事を理解しているような気がする。

・(企業委員2) 当社は、1年目で離職は10%程度である。元々大型車に興味がない方が多く入社している。指導方法も検討しており、OJT制度の導入を検討している。

昨今の問題は、残業代が減り、4年目ぐらいで退職するケースがある。退職者は、タクシー・輸送業など目先の給料で退職する。→ 同様な企業もあり

・(大型車企業委員) 私自身も大型が好きで入社したわけではない。しかしながら、生活の為、お金を稼がなければならなかったのも、辛くとも給料の良い会社を辞める選択は無かった。働く目的が明確なら早期退職につながらないのでは？

→退職の理由は、1級課程、2級課程に関係ないと思う。ただ、1級課程はプライドが高い方がまれにいて、思ったように技術が身につかなかった際に、学生時代に描いていた、仕事がバリバリ出来る理想の自分とのギャップで辞めてしまうケースがある。

・(企業委員3) 当社は、2割程度が退職をする。早い者でメカニックは3カ月程度の退職者もいる。

・(企業委員4) 早期離職者は、営業・技術計を合わせ30%前後である。全社員を合わせると5%程度なので、離職率としては少ないと思う。

→(対応) 早期離職対応策等として、「内定者懇親会」を年4回開催、新入社員は、入社後に多くの店舗での研修をし、社長面談で本人の意向を含め、配属先を決定している。

→(対応) また、一度退職した者を戻すアルムナイ制度を導入する検討を進めている。

・(委員) 現状の問題と解決は、企業が長く抱えるの課題である。退職に至るまでは大きく3つある。

- 1) 仕事のやりがい(認知不協和)
 - キャリア教育として、ビジネスの仕組みの基礎を学ぶのは有効である。(退職率は7:中卒、5:高卒、3:大卒と言われる)
- 2) 食べられない給与(現在はない)
 - 労働分配率が日本は低い。高めることは有効。
- 3) 人間関係(現代の若者は、メンタルが弱い。人材育成には、心理的安全性が必要である。
 - 上司の元で安心して働ける環境づくり(例: 1on1 * 上司と部下が月に複数回、1回30分程度面談するコミュニケーション技法)

3. 他・学校への要望

→多くの企業を学生に見せる機会を与えてほしい。

→会社を知ることだけでなく、社会を知る、経済をすることが、何のために仕事をするか。を学び結果的に企業を知ることにつながる。

⇒ 以上の意見を踏まえ、早期退職防止については継続課題として、次年度も検討して行きたい。

以上の内容で散会とした。

会議風景

会議風景

【全体会】



【1級課程分科会】



【2級課程分科会】



事務局より
次回日程

令和3年6月と10月を予定

以上